

所得と幸福度の関係～所得はどこまで人を幸せにできるのか～

2019 8月9日

経済学部2年 中井 一磨

(1) はじめに

今回私は幸福の経済学の中でも所得に注目を当てて、幸福と所得の関係について調べてみた。このレポート内では、自分が持った、幸福は所得によってすべて決まるのではないかという考えが本当に正しいのかどうかと、日本の中で幸福と所得の関係はどうなっているのかを都道府県単位で見たいと思う。今回私がなぜこのテーマについて調べようかと思ったのかというと、昔テレビを見ていたところ、ある番組でこのテーマと似た所得と幸福にどのような関係があるかについて取り上げられており、その番組を面白いと思って見ていたことを思い出し、自分が昔興味を持ったことについて調べるためのいい機会であると思ったことと、自分の中では幸福を求めるためには所得は切り捨ててはいけないものであると考え、幸福を最も得るには所得を得るのが一番いいのではないかという考えを持ち、もしこれが立証されるならば人間の幸福を上げたいなら政府によって所得を上げさせる政策を行わせればいいのではないかと考え、これについて調べるのは面白いと思ったことと、せっかく経済学部に入り、半年間経済のことについて学んできたのだから、幸福というお題についても経済とつなげたいと思っていたところ、幸福の経済学というものを見つけてしまったからには、それに自分の意見を持って触れてみたいという気持ちがあったからである。今回このテーマを取り扱うまでは、私は幸福とはすべてではないものの自分のお金の量によって大きく左右されるもので、所得こそが幸福の最大要因であり、それ以外の要因は大して影響を及ぼさず、所得の付随品のようなものであると考えていた。たまにドラマや漫画などにもあるような、「幸せはお金で買える」というようなことが本当にあり得、金持ちになることは幸せになるための条件であると考えた。しかし、私の友人と話していたところ、その友人は所得の中間層が一番幸せであるのではないかと考えていた。確かに、お金持ちにはその人たちがじゃないとわからないようなしがらみが存在するようにも感じるし、貧困層はお金がないことにより、私は昔読んだ本の中で同じような考え方をしていたものがあり、その考えにも一理あると考え、今回は所得によってすべての幸福が決まるという仮定と、所得と幸福の関係を図にし、x軸を所得、y軸を幸福とすると、富裕層や貧困層が幸福度が低く、中間層が一番幸福度が高い負の2次関数のような形になるのではないかと仮定を置き、考えていくことにした。

(2) 幸福は本当に所得だけで決まるのか

まず、最初に所得によってすべての幸福が決まるのではないかという仮定が正しいのかどうかについて考えていきたいと思う。私の調べた著書では、すべてが所得が幸福をすべて決定しているという意見を否定していた。例として、未解決ではあるものの、イースターリンという経済学者は裕福な国は貧困な国よりも幸福であるが、幸福度は、ある一定のと

ころまでは所得の上昇に伴って上がるものの、それ以降は伸びなくなる。しかし、貧困かつ幸福度が低い国でも、平均所得と平均幸福度に明確な関係はなく、文化的な特性などほかの要因が影響することを示しているというパラドックスを示している。それだけではなく私が調べたすべての著書において「しかし経済学がより精密で定量的になるにつれて福祉の定義が「効用」という概念を採用し、所得だけを考慮するように変化してしまった。これは人が物質的なものとそうではないものに対して異なる好みを持つことから、福祉の重要な要素を見落とす場合がある。」「しかし経済学がより精密で定量的になるにつれて福祉の定義が「効用」という概念を採用し、所得だけを考慮するように変化してしまった。これは人が物質的なものとそうではないものに対して異なる好みを持つことから、福祉の重要な要素を見落とす場合がある。」というように幸福を所得によって決めるのは早計であり、幸福というものは所得だけではなくほかにもたくさんの要因が存在するというを示している。これらから私が考えていた幸福はすべて所得によって決まるという一つの仮定は正しくないことが分かった。それだけではなく、私のこの仮定は幸福の経済学で経済学がより精密で定量的になるにつれて考えられるようになっていった幸福の経済学にとっての弊害となる考え方となってしまうということも分かった。ただ、「国内ではどのような文化や発展レベルであっても、裕福な人ほど貧乏人より幸福であること、また、所得の増加とともに増える幸福は、絶対所得水準が上がるとともに減少することがわかっている。」、ともあるように、所得が全く幸福度に効果を与えないわけではないということもまた事実である。

(3) 都道府県単位の所得と幸福の関係

今まで調べてきたことから、私は自分の考え方を少し変え、所得で幸福が全て決まるわけではないが、所得という要因は幸福にかなり影響を与えるものであり、ここでの幸福と所得の関係は前述したように図として現れるのではないかという仮定を立て、データが集めやすい日本の中で調べてみようと考えた。実際、内閣府が日本人に行ったインターネット調査では、幸福度の要因の中で所得は健康状態や家族関係を差し置いて一番大きな要因となっていた。このことから所得が幸福度に大きく関係していることが分かった。そこで、いちばん資料が集めやすい日本の都道府県ごとの所得と幸福度の関係をランキングを用い、比較することによって所得と幸福についての関係について明らかにしていこうと考えた。ある資料では、所得や幸福度の公平性という観点からは、地域ではなく個人ないし世帯に着目するべきであるということも述べられていたが、先ほどの資料で、裕福な国が貧困な国より幸福度が高いという結果もあり、都道府県の中にも表れてもおかしくはないのではないかと思い調べてみることにした。今回は都道府県別の県民一人当たりの所得ランキングと都道府県別の幸福ランキングを比べてみることにしました。所得ランキングでは一位から順に東京、愛知、三重、栃木、富山となっており逆に下位は下から沖縄、鳥取、宮崎、鹿児島、長崎となっており、幸福度ランキングでは一位から順に福井、東京、富山、長野、石川となっており、下位は下から順に高知、青森、沖縄、長崎となっていた。

私の出身地である三重県について詳しく見てみると、三重県は所得ランキングは3位で幸福度ランキングは13位となっており、所得の大きさに応じて幸福度も高くなっているように見られる県の一つである。このようにして、これらのランキング全てを組み合わせ、所得と幸福度の図を作ったところ、結果として所得が多い都道府県では幸福度が高い県が多く、少ない県では幸福度が低い県が多いという結果になった。自分が仮定したような中間層が最も幸福になっているとする負の二次関数のグラフにはならなかったが、所得が多い県の幸福度が高く、所得が低い県の幸福度が低くなっている正の一次関数に似たような図になった。これらのランキングの集計によって、少なくとも幸福度が所得に大きな影響を与えていることと、所得の幸福について一つの考え方で、自分の所得を周りの人と比較して、自分の幸福度、不幸福感を感じるという相対所得仮説、人は条件の変化にすぐ対応するという順応仮説が存在し、これによって所得が増加してもそれが当然だと思い、あまり幸福度を感じない。高所得者の人は順応仮説で幸福度があまり上がらず、低所得者の人は、相対所得仮説でますます不幸福感が高まるという考え方も存在し、この説によると図は私の仮定したような二次関数ができると思ったが予想外な結果となった。

(4) 結論

今回は所得と幸福度の関係について調べていったが、やはり最初の仮定は全体的を外れており、幸福の経済学的にはよくない考え方でさえあった。最初の仮定から少し変更した仮定を示すために日本の都道府県別のランキングを利用し、所得が幸福度にどれくらい影響を与える要因であるかと所得と幸福度のグラフを作り、一次関数のような図になるという予想外な結果になったが。しかし、都道府県のランキングの順位というのは非常に大まかな情報であり、実際のところ信憑性に足りる情報とはいえないものになってしまったのが悔やまれる。本当に信頼できるグラフを作るためには幸福度が数値化されたものと、所得が数値化されたものが必要であると思った。ともあれ、幸福度には所得が大きくかかわっており、幸福を得るためには所得を切り捨ててはいけませんが、所得のみに固執してはいけないということが分かった。「間違いなく所得は個人と国の量レベルの幸福を決定する役割を果たしている。にもかかわらず、測定がより難しい他の要因に対する所得の役割を評価することは、近い将来の課題として残されるだろう。」ともあるように所得の役割の評価は困難でかつ人類としての課題でもあるのである。

(5) 参考文献

著書

人類の幸福論 貧しくても幸せな人と裕福でも不満な人 著 キャロル・グラハム 訳 猪口孝 西村書店 2017年7月6日発行

「幸せ」の経済学 橘木俊詔 岩波書店 2013年6月18日発行

「幸せ」の決まり方 主観的厚生と経済学 小塩隆士 日本経済新聞出版社 2014年3月19日発行

全 47 都道府県幸福度ランキング 2018 年版 寺島実郎 東洋経済新報社
幸福度をはかる経済学 著 ブルーの・S・フライ 訳 白石小百合 NTT 出版 2012 年 9
月

インターネット資料

内閣府 第 7 回幸福度に関する研究会 (9 月 28 日) インターネット調査報告書(検討用資料) <https://www5.cao.go.jp/keizai2/koufukudo/shiryou/7shiryou/7shiryou.html>

内閣府 県民経済計算 推計結果 結果の概要

https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/sonota/kenmin/kenmin_top.html

地域間経済格差について：実質賃金・幸福度 森川 正之

<file:///C:/Users/mozuk/OneDrive/ドキュメント/10j043.pdf>

最新通信簿！47 都道府県「幸福度」ランキング

<https://toyokeizai.net/articles/-/221831>